

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

内田 浩

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、ばいかご全体の調査結果については、後述する「平成30年度の漁況」に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

当センター漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行った。

(2) 資源生態調査

J F しまね久手出張所および仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。

3. 研究結果

(1) 漁業実態調査

平成30年のばいかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量は50.7トン(前年比102.1%)、水揚げ金額は2,697万円(前年比100%)であり、前年とほぼ同様な水揚げ状況であった。平年(過去10年)と比較すると、漁獲量で74%、水揚げ金額では88%に減少していた。これは操業隻数や出漁日数等の努力量の減少が原因と考えられる。

漁場は、江津沖から島根半島沖の水深190~210mの範囲に集中しており、近年はほぼ同様の範囲で操業している。

平均価格は544円/kg、平年比125%であった。平成18から22年は400円/kgを下回

っていたが、それ以降増加傾向がみられ、近年では550円/kg前後で推移している。

銘柄は特大、大、中大、中、小、豆の6銘柄、小型銘柄の価格が高い傾向があり、小、豆は600円/kgを越えていた。しかし、小、豆の価格は平成26年のピーク以降低下傾向を示している。

(2) 資源生態調査

資源状態の指標となる1航海当たりの漁獲量は714kg、平年比177%であった。平成22年以降増加傾向が見られ、平成26年からは700kg前後の高水準で推移している。1航海当たりの漁獲個数は15.7千個で平年比129%であった(図1)。

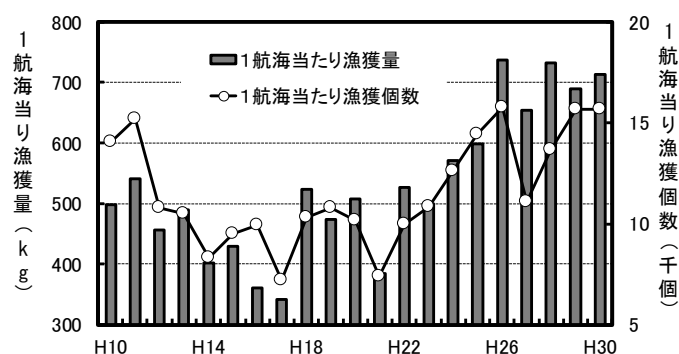


図1 1航海当たりの漁獲量および漁獲個数
漁獲物の殻高は40~120mmの範囲にあり、平年比では40~80mmが増加している。平成28年以降40~60mmの小型群の増加傾向が見られる。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばいかご漁業部会で報告された。調査結果は同部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。